

【2019年3月期 第3四半期決算説明会】 質疑応答概要

※説明会における主な質疑応答をご紹介します。

＜日 時＞	2019年2月7日（木） 17:00～18:00
＜出席者＞	明治ホールディングス(株) 取締役常務執行役員 古田 純

Q1:2019年2月4日に牛乳・ヨーグルトの価格改定を発表しましたが、本価格改定による来期の利益への影響をどのように見込んでいますか。また、2020 中期経営計画において牛乳事業の黒字化を掲げていますが、今回の価格改定が赤字解消に貢献しますか。

A1: 価格改定については、国内生乳価格の上昇に加えて包装資材や物流費、人件費などの上昇も加味して価格改定率を決定しています。価格改定による来期業績への影響度については、5月の2019年3月期本決算発表時にお示しする予定です。また、牛乳事業の黒字化に関しては、今回の価格改定だけではなく、商品政策や工場の生産体制の最適化などのミックスによって2020年度の黒字化を達成したいと考えています。

Q2:今期のチョコレートの売上げの弱さは、前期のハイカカオブームの反動減が要因なのか、それとも少子化による子供需要の減少が想定以上に大きく、チョコレート全体を押し下げているのか、どのように分析されていますか。また、今後のチョコレートの売上げの回復策をどのように考えていますか。

A2: チョコレート需要はこれまで順調に伸びてきましたが、最近鈍化している状況です。しかし、中長期的には需要は伸びていくと考えています。カテゴリー別の動向としては、健康志向チョコレートはメディアで取り上げられたこともあり、着実に伸長しています。一方で、従来からの定番品のチョコレートなどの伸びが弱い状況です。プレミアムタイプのザ・チョコレートは前期好調に推移しましたが、リピートが取れなかったことから今期は苦戦しました。今後はチョコレートのおいしさをさらに発信し、新たなチョコレート文化を根付かせていきたいと考えています。

Q3:食品セグメントの2018年度下期計画では、スポーツ栄養の売上高は+20.1%と強気の計画としていますが、第3四半期の時点では計画に対する進捗が遅いように見えます。その要因と第4四半期における挽回策を教えてください。また、計画が未達となった場合、営業利益への影響をどのように見えていますか。

A3: スポーツ栄養は毎年挑戦的な計画を設定しています。第3四半期時点においては店頭・ECの両方で販売強化に取り組んだこと成果が出ており、前年同期比ベースでは比較的好調に推移していますが、対計画比では厳しい状況にあります。また、スポーツ栄養の主力商品であるSAVASは利益率が高い商品のため、売上計画未達となれば利益についても相応の影響は発生すると考えています。

Q4:グループ連結の第3四半期累計の営業利益は796億円となり、通期計画1,010億円から差し引くと、第4四半期は医薬品セグメントで大幅減益となる計画です。どのようなマイナス要素の発生を見込んでいますか。

A4: 医薬品セグメントの第4四半期はインフルエンザワクチンの返品などにより減益を見込んでおります。インフルエンザワクチンの返品だけではなく、主力のリフレックスやピラノアの売上げ動向によっても変動するため、2019年3月の決算が締まってみないと分からない状況です。従って、現時点では通期計画を修正しておりません。

以上